

鮮需要ノ七割三分ハ内地産品ノ供給ヲ仰ケルノ状態テアル。
 本品ハ原料護謨相場前年ノ如キ動搖ナク昨年中英國植民地ニ於ケル其ノ輸出制限モ本年ハ自然撤廢ノ姿トナ
 リ加フルニ對外爲替ノ趨勢モ亦、原料ノ輸入ニツキ採算有利ナリシモ、製品相場ノ漸落ヲ辿リタル爲メ、内
 地朝鮮其生産者乃至取扱商店ノ利益ハ厚薄區々ナリシカ如ク、實需方面ハ周年般盛ヲ呈セシ模様テアル。
 相場左ノ通り。

品名	(十 足 建)		前年平均
	最高	最低	
朝鮮型男物(並)	一二・〇〇	八・五〇	九・六〇
同 女物(並)	一一・〇〇	九・〇〇	八・九〇
同 子供物(並)	九・〇〇	八・〇〇	七・五〇
同 (極小)	七・〇〇	六・〇〇	五・三〇
短靴 (大人)	九・七〇	九・〇〇	一一・六九
同 (子供)	七・一〇	六・六〇	七・七八
釜山 朝鮮型男物	八・二〇	七・六〇	一〇・七三
同 女物	六・三〇	六・〇〇	八・八二
同 子供	四・〇〇	三・八〇	七・〇七

○洋 紙 (印刷料紙)

國 別	數 量 (斤)		價 額 (圓)	
	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
内地	一六,三六一,二六八	一三,二六〇,二五七	三,七七〇,五〇一	三,〇〇七,四五八
支那	四四〇	二八	九四	六
英吉利	九,六五三	三,四八三	二,七〇四	七八八
瑞典	—	四〇〇	—	一〇五
北米	一,五八七	二,二六六	六三二	六五一
瑞西	—	一九五四	—	四六〇
獨逸	—	五〇一	—	一五六
諾威	—	三八〇	—	八五
合計	一六,三七二,八四七	一三,二六九,二六九	三,七七三,九三〇	三,〇〇九,七〇九
				七六四,三二一

輸入額前表ノ如ク、前年ニ比シ三百十萬三千餘斤、七十六萬四千餘圓ノ増進ヲ示シテキル。文化ノ進展ニ
 伴ヒ、本品ノ需要ハ逐年増加ノ趨勢ヲ辿リ、財界ノ景氣如何ニモ餘リ影響ヲ受ケサルモノノ如ク、殊ニ相場
 ノ軟調ハ需要ヲ煽リタル傾向アリテ入荷促進ヲ呈シタノテアル。
 相場左記ノ如シ。

品名	(並品百斤建)													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
神戸洋紙 (一本百枚)	285	285	285	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280
元山	240	240	235	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230
釜山	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230
京城	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250
平壤	280	245	245	245	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280
仁川	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550
釜山	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570
京城	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600
仁川	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150
釜山	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950
元山	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850
京城	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000
平壤	3400	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150
模造紙 (一連五百枚)	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000
新開洋紙 (一連五百枚)	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550
釜山	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570
京城	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600
仁川	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150
釜山	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950	2950
元山	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850	2850
京城	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000	3000
平壤	3400	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150	3150
平均	278	278	278	278	278	278	278	278	278	278	278	278	278	278
前年	282	282	282	282	282	282	282	282	282	282	282	282	282	282

和紙

國別	地	數		價		額	
		大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
内		2278048	2268340	90292	1413130	2488684	755554
				減(△)		增	減(△)

移入額前表ノ如ク、昨年ニ比ヘ九萬餘斤七萬五千餘圓ノ減退ヲ示シテキル。本品ハ主トシテ、半紙、美濃紙、塵紙ニシテ卷紙、奉書等ヲ含ミ、手漉物ハ、高知、愛媛、静岡方面ヨリ、機械物ハ鳥取方面ヨリ、塵紙ハ九州方面ヨリ移入セラレ、總シテ和紙ハ從來土佐物ノ入荷最モ多カツタノテアルカ、最近洋紙相場ノ落潮ト需要ノ増大トニテ、漸次賣行ヲ阻害セラルル状態ニアリ、自然洋紙トノ競争上優良品ヨリモ、下級品ニ移ル傾向ヲ示シ、「パルプ」ヲ混入セル機械漉ノ入荷カ多イ。相場左ノ如シ。

品名	(上等品一締)													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
手漉半紙	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540
仁川	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520
釜山	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520
元山	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520
京城	680	680	680	680	680	680	680	680	680	680	680	680	680	680
仁川	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270
釜山	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270
元山	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270
京城	680	680	680	680	680	680	680	680	680	680	680	680	680	680
平壤	370	370	370	370	370	370	370	370	370	370	370	370	370	370
平均	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362
前年	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362

		(上等品一締)				量 (百斤=セクル)												額 (圓)	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年				
手漉美濃紙	京	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇		
	元	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇		
美濃紙	京	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇		
	元	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇		
機漉紙	京	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇		
	元	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇		

〇セメント

國別	數		價		額	
	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
獨逸	一、一六六	—	六六〇七	—	六六〇七	—
支那	—	八三	—	三八	—	二〇三
内地	一、一六九、四三四	六八三、九一〇	二、四七七、七五〇	一、四八五、七二六	九、九二〇、三四	一、六五
合計	一、一七〇、七〇	六八三、九一〇	二、四八四、五二四	一、四八五、九一九	九、九八六、〇五	—

輸移入額右表ノ如ク、前年ニ比シ四十八萬七千餘擔九十九萬八千餘圓ノ劇増テアル。前年ハ諸工事ノ縮少、線延等ノ關係カラ、本品ノ入荷特ニ不振ヲ告ケタカ、本年ハ一般不況ノ中ニモ水利工事、鐵道工事乃至水電事業等土木建設界相當活氣ヲ帶ヒ、事業用品ノ入荷比較的好況ヲ呈セシカ、別ケテ本品ノ需要狀態ハ、事業界ノ形勢ヲ表徴セルモノト見ラレル。

内地方面稍生産過剰ニテ、絶エス市況不勢ヲ迪ツタカ、各生産會社ハ市價ノ維持ニ力メ、辛ウシテ低落ヲ阻止シタ様テアル。市價左ノ如シ。

		(大樽一挺建)													
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
仁川	淺野	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	五八八
	豐國	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	五八八
釜山	淺野	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七六
	豐國	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七六
元山	淺野	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	五九四
	豐國	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	五九四
合計	淺野	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五五	五六二
	豐國	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五五	五六二

		(大樽一挺建)													
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
京	城	中	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇
		淺野	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五八五	五八五	五八五	五八五	五八五	五七六
豐	國	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五八五	五八五	五八五	五八五	五八五	五七六	
平均		五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	
前年		五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	五五〇	

石炭

國別	大正十五年		大正十四年		大正十五年	大正十四年	
	増	減(△)	増	減(△)		増	減(△)
内	二七七,四三八		一八七,一八九		九〇,二四九		二,一五四,五八三
支	四五二,九四八		四八一,九三五	△	二八,九八七		五,四〇〇,五四五
佛	二,〇〇〇		三,六九〇	△	一,六九〇		一一三,一五〇
露	九,九〇〇		四		九,八九六		八〇
合	七四二,二八六		六七二,二八八		六九,四六八		七,六七八,三五八
計							八七九,四三三

輸移入額前表ノ如ク、昨年ニ比シ六萬九千餘噸八十七萬九千餘圓ノ増進ヲ示シテキル。這ハ畢竟鐵道、船舶工場等ニ於ケル需要ノ増加ニ基クモノテ、前年ニ於テハ、朝鮮炭ノ使用獎勵ニ、内地炭稍牽制ヲ受ケシ様ナルモ、一般ニ消費額ノ増加シ、且ツ品質上鮮産品ト輸移入品トノ混用ヲ利トスル關係カラ、本年ハ兩者共需

要ヲ増シタノテアル。但シ支那炭ハ主トシテ開平炭カ該地方動亂ノ爲メ輸入難ヲ來シタノテ、撫順炭ハ若干増加セシニ拘ラス全額ニ多少減退ヲ示シテキル。

試ニ昨今兩年中ノ石炭需給狀態ヲ表示スレハ左ノ如クテアル。

輸移入品	大正十五年		大正十四年	
	無煙炭	有煙炭	無煙炭	有煙炭
朝鮮産品	一三三,三八五	七四二,二八六	一五三,四八二	六七二,八一八
計	一三三,三八五	一〇六,九四八	一五三,四八二	九二八,六七六

備考 朝鮮産品ハ鮮内供給ノ額ニシテ山元消費ヲ含ミ輸移出サレタモノヲ含マズ

相場左ノ如クテアル。

仁川	釜山	(噸建)												
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
豐	順	一三七〇	一三七〇	一三七〇	一三七〇	一三七〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一三七八	一三二三
順	豐	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇
撫	順	一四五〇	一四五〇	一四五〇	一四五〇	一四五〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四四二	一四五八
撫	豐	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七七五	一七九二
平均		一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八	一三七八
前年		一三二三	一三二三	一三二三	一三二三	一三二三	一三二三	一三二三	一三二三	一三二三	一三二三	一三二三	一三二三	一三二三

噸 (建)	月												平均	前年	
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月			
元山 豐	一六〇〇	一六〇〇	一七〇〇	一四〇〇	一五二五	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一六〇〇	一六〇五	一四二二
鎮南浦 順	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一七七五	一七〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一七五〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一七五〇	一七八五	一九四五
京 豐	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇
城 順	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇
平均	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇
前年	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇

○石 粉

國 別	數			價			額		
	大正十五年	大正十四年	增減(△)	大正十五年	大正十四年	增減(△)	大正十五年	大正十四年	增減(△)
內 地	四八〇七七三	三九七五五六	八三二四六	四三五五四九	三七九四六〇	五六〇八九			

移入額右表ノ通りニテ、前年ニ比シ八萬二千餘擔五萬六千餘圓ノ増進ヲ示シテキル。殆ント悉ク精米工場ニテ消費サレルモノテ、本年ハ精米移出ノ繁盛ニ伴ヒ、勢ヒ本品ノ需要モ増加シタノヲアル。朝鮮内ニモ生産アリ試ミニ精米工業ノ最モ盛ナ仁川港ニテ生産ノ石粉ニツキ、内地石粉ト市價ヲ比較スレハ鮮産品ノ方百斤入一噸當約十錢方低廉ナルモ、品質ニ於テ遜色アル爲メ、依然内地産品カ歡迎サレテキル模様ヲアル。本年ノ相場左ノ通り。

(百斤入一噸)	最高	最低	平均	前年平均
青 粉	〇七三	〇六九	〇七一	〇七八
白 粉	〇六三	〇五九	〇六一	〇六五

○陶器及磁器

國 別	數			價			額		
	大正十五年	大正十四年	增減(△)	大正十五年	大正十四年	增減(△)	大正十五年	大正十四年	增減(△)
內 地	二四三四六六九	二二四二四九〇	一九二、二七九						
支 那	五、三四二	四、一六一	一、二八一						
北 米	七、一一一	二、〇〇五	一、二八四						
其 他	二、一〇三	一、三六〇	七四三						
合 計	二、四四二、八三五	二、一五〇、〇一六	一九二、八一九						

輸移入額右表ノ如ク、前年ニ比シ十九萬二千餘圓ノ増進トナツテキル。食器其ノ他ノ日用器具、碍子等ノ事業用品何レモ年々需要増進ノ趨勢ニアリ、殊ニ本年ハ北鮮地方ニ入荷増進ヲ呈セシカ、這ハ大豆ノ作柄良好ナリシニ依リ、自然農村ニ於ケル此等日用品ノ需要昂進セシト奥地間島方面ヘノ供給増加セシトニ由ルモノテアル。

市價ハ概シテ昨年トハ一割方ノ下落ヲ呈シテキル。即チ左ノ如シ。

品名	(十 個 建)													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
仁川	サバル白五寸 一・七五	一・七八	一・七八	一・七八	一・七〇	一・七〇	一・七〇	一・六〇	一・六〇	一・六〇	一・六〇	一・六〇	一・六八	一・八四
便器白八寸	七・三〇	七・三〇	七・三〇	七・三〇	七・三〇	七・三〇	七・三〇	七・三〇	七・三〇	七・三〇	七・三〇	七・三〇	七・二八	七・八三
釜山	サバル白五寸 一・六一	一・六一	一・六一	一・六一	一・五三	一・五三	一・四六	一・四六	一・四六	一・四六	一・四六	一・四六	一・五三	一・五九
便器白八寸	一・八五	一・八五	一・八五	一・八五	一・七八	一・七八	一・七四	一・七四	一・七四	一・七四	一・七四	一・七四	一・七九	一・八五
元山	サバル白五寸 一・五七	一・五七	一・五七	一・五七	一・七〇	一・七〇	一・七〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・六七	一・九七
便器白八寸	六・六〇	六・六〇	六・六〇	六・六〇	六・〇〇	六・〇〇	六・〇〇	五・七〇	五・七〇	五・七〇	五・七〇	五・七〇	六・〇三	六・三三
鎮南浦	サバル白五寸 二・〇〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八二	二・〇〇
便器白八寸	二・五〇	二・三〇	二・三〇	二・三〇	二・三〇	二・三〇	二・三〇	二・三〇	二・三〇	二・三〇	二・三〇	二・三〇	二・一三	二・五〇
京城	サバル白五寸 一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・八〇	一・七三	一・八〇
便器白八寸	七・五〇	七・五〇	七・五〇	七・五〇	七・五〇	七・五〇	七・五〇	七・五〇	七・五〇	七・五〇	七・五〇	七・五〇	七・二八	七・五〇

○窓硝子

國 別	數 (方呎)		價 (圓)	
	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
内地	五〇〇一、二三九	三、八八一、四五二	一、二九七八	四七六、〇七三
支那	九四、四三八	一七六	九四、二六二	四一
北米	三三八	一、二二七	一五九	二八五
白耳	二、五二八	五三二七	一七五	七〇六
合 計	五、〇七八、五三三	三、八八八、二七一	一、二九七、八二六	四七六、一〇四
			八三、七三二	八三、七三二

輸移入額右表ノ如ク、前年ニ比シ百二十一萬餘方呎八萬三千餘圓ノ増進ヲ告ケテキル。建築界ノ逐次恢復ニ由リ、入荷促進ヲ來シタノテアルカ、一面爲替相場ノ昂騰ニテ、内地ニ於ケル外國物ノ輸入劇増ノ結果、之カ壓迫ヲ受ケ内地物モ市價低落シ、朝鮮ノ販賣ニカメタル等内外ノ事情呼應シテ、入荷數量前掲ノ通劇増ヲ呈シモノテアル。相場左ノ如シ。

仁川	(内地産並品)													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
川	一〇、四五	一〇、四五	一〇、二〇	九、八〇	九、三〇	八、八〇	八、八〇	八、八〇	八、三〇	八、三〇	八、三〇	八、五〇	九、二七	一〇、九八

第五 輸移入重要品

四〇〇

沈淪ノ状態ナリシ建築界モ、本年ハ漸ク活況ヲ示スニ至リ、本品ハ右入荷ノ劇増ニ相應シテ荷捌繁忙ノ状態ヲアツタ。而シテ北鮮方面ノ水力電氣工事、鐵道布設工事ノ進捗ニツレ、同地方ノ需要ハ相當纏ツタモノカアリ其ノ他各地ノ小工事向車輛及農具ノ製造用等ニモ賣行良好ヲ示シタノテアル。相場ハ對外爲替ノ續騰内地市況ノ不勢ヲ移シテ、逐月低落シ之ニ伴フ小資商人ノ投物續出、大手筋ノ手持潤澤等ハ一層下落傾向ヲ助長セシヲ見ル。市價左ノ如シ。

地	數		價		額	
	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
仁川	四八〇	四七〇	四六五	四六〇	四二〇	四一五
釜山	四四〇	四四〇	四三五	四六〇	四二〇	四一五
元山	四七〇	四七〇	四八〇	四八〇	四一〇	四一〇
京城	四五〇	四四〇	四四〇	四三〇	四一〇	四〇五
平均					四二九	四八二
前年						

鐵電鍍板

國別	數		價		額	
	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
支那	三、七〇二	五三二	三五七	一一一	一一一	三三六
英吉利	一、七五〇八	四九七九八	二、九七六	六、八八九	三、九一三	三、九一三
北美合衆國	一、一五二	八五五二	一八四	二、四三一	二、四三七	二、四三七
合計	一、三六三、五七四	一〇、七三三、九五四	二、八七九、六一〇	二、五三〇、四三〇	二、一三〇、〇〇〇	四〇〇、四三〇
内						

支那	數		價		額	
	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
支那	三、七〇二	五三二	三五七	一一一	一一一	三三六
英吉利	一、七五〇八	四九七九八	二、九七六	六、八八九	三、九一三	三、九一三
北美合衆國	一、一五二	八五五二	一八四	二、四三一	二、四三七	二、四三七
合計	一、三六三、五七四	一〇、七三三、九五四	二、八七九、六一〇	二、五三〇、四三〇	二、一三〇、〇〇〇	四〇〇、四三〇

輸移入額右表ノ通りニテ、前年ニ比シ二百八十四萬三千餘斤三十九萬四千餘圓ノ増進ヲ告ケテケル。春來相場漸落ノ趨勢ニ、内地手持筋ノ賣急キト、朝鮮ニテハ建築界ノ相當好況ヲ呈シ、價格ノ低落カ實需ヲ促セシトニ由リ入増ヲ呈シタノテアル。用途其ノ他從來ト異ナリタルモノナシ。相場左ノ通り。

地	數		價		額	
	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
仁川	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
釜山	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
元山	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
鎮南浦	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
平均						
前年						

第五 輸移入重要品

四〇一

○鐵筒及管

國別	大正十五年		大正十四年		大正十五年		大正十四年	
	數	量 (斤)	數	量 (斤)	價	額 (圓)	價	額 (圓)
内地	37,542.8	3,872,996.6	38,729.96	1,675,568.8	573,733	593,092.2	19,360	1,936.0
支那	17	97	97	80	10	26	16	16
英吉利	10,043	3,352.1	12,478	2,347.8	5,433	7,846	4,433	4,433
北美合衆國	25,841	1,254,444	99,603	5,448	19,161	13,713	13,713	13,713
和蘭	1	724	724	724	1	121	121	121
獨逸	96	55	41	19	19	53	33	33
合計	37,741,414	4,031,817	29,040,111	5,816,333	610,298	376,666	376,666	376,666

輸移入額前表ノ如クニシテ、前年ニ比シ二十九萬餘斤三萬七千餘圓ノ減少テアル。本品ハ主トシテ、瓦斯及水道用ニ使用サレルモノナル關係上、入荷ノ消長ハ殆ント是等敷設工事ノ如何ニ懸ツテキル。本年ハ元山、鎮南浦、群山地方何レモ若干ノ増入ヲ呈シタケレトモ、其ノ他ノ地方ハ何レモ減退ヲ示シ、就中城津、釜山、清津、木浦地方ニ於テ著シク入荷不振ヲ告ケタ。

○銅塊及錠

國別	大正十五年		大正十四年		大正十五年		大正十四年	
	數	量 (斤)	數	量 (斤)	價	額 (圓)	價	額 (圓)
内地	377,310	226,751	150,559	190,530	199,146	71,384	71,384	
支那	5,667	53,688	299	1,770	1,377	393	393	
合計	382,977	280,439	150,858	192,300	200,523	71,777	71,777	

輸移入額前表ノ如ク、前年ニ比シ十五萬餘斤七萬一千餘圓ノ増進テアル。本品ハ主トシテ鐵道工場及其ノ他ノ工場ニ於ケル製作材料、又ハ鮮人向銅器並鋸器ノ原料ニ用ヒラレテキルノテアルカ、近時器具用トシテハ不振ノ狀況ナルモ、鐵道其ノ他ノ工場方面ノ需要増進ヲ示シテキル。而シテ本年ノ入津増加ハ重モ仁川ニ於ケル現象テアル。

○銅線

國別	大正十五年		大正十四年		大正十五年		大正十四年	
	數	量 (斤)	數	量 (斤)	價	額 (圓)	價	額 (圓)
内地	621,236	445,393	175,843	348,892	247,368	101,524	101,524	

輸移入額前表ノ如ク、昨年ニ比シ十七萬五千餘斤、十萬一千餘圓ノ増進テアル。本品ハ電線用トシテ、遞信

局鐵道、電氣會社ノ需要ニ係ルモノカ多ク、細物ノ船舶ヤ金網材料ニ供セラルルモノモアレト、見ルヘキ程ノモノテナイ。前記ノ入増モ専ラ電線用ノモノテ逐年増進ノ趨勢ヲ示シテキル。相場ハ年中大ナル變化ナク、仁川ニ於テ十八番線十貫四十八圓内外テアツタ。

○錫

國 別	數		量 (斤)		價		額	
	大正十五年	大正十四年	增	減 (△)	大正十五年	大正十四年	增	減 (△)
内 地	二四四、九〇〇	二六四、三五五	△	一九四五五	四五六、〇〇三	五〇五、三三四	△	四九、二三一
支 那	二二	八		一四	一九	四		一五
北 米	一九	二二	△	二	三九	八六	△	四七
英領海峽殖民地	一	五、〇二七	△	五、〇二七	一	九、〇七二	△	九、〇七二
合 計	二四四、九四一	二六九、四一一	△	二四、四七〇	四五六、〇六一	五二四、三九六	△	五八、三三五

輸移入額右表ノ通りニテ、前年ニ比シ二萬四千餘斤五萬八千餘圓ノ減退ヲ示シテキル。錫器、鍍器ノ賣行ハ引續キ不況ヲ呈シ、代ツテ陶器ノ使用カ殖エル傾向ヲ示シ、此等ノ事情ヨリ、本品ノ輸移入ハ數年來漸減ノ趨勢ニアル。尤モ水道鉛管ナトノ接合及半田錫ノ製造原料トシテノ需要カ年々増加ノ趨勢ニアルカラ、輸移入額モ追々恢復ヲ示スコトニナルテアラウ。

仁川ニ於ケル相場左ノ如シ。

(百斤建) 最高 最低 平均 前年平均
 丁 錫 一九四・〇〇 一八七・〇〇 一九〇・五〇 二〇七・〇〇

○洋 鐵 釘

國 別	數		量 (斤)		價		額	
	大正十五年	大正十四年	增	減 (△)	大正十五年	大正十四年	增	減 (△)
内 地	五四八、九五四	四、六五九、五九九		八二二、三五五	六〇九、八六二	五七七、九九一		三二、八七一
支 那	一九八二	一、三三七		六五五	三三八	二六〇		七八
英 吉 利	八三八二	六四七六		一九〇六	八九五	八八五		一〇
北 米 合 衆 國	三五八七三	二二、一六八		一五、七〇五	四、〇〇五	三、九八九		一六
白 耳 義	八	六七七三	△	六七六五	八	九三二	△	九二四
獨 逸	二五〇	八		二四二	一六四	三		一六一
和 蘭	一	三、二六七	△	三、二六七	一	三四五	△	三四五
合 計	五、五八、四四九	四、六九、九六八	△	八二八、八三一	六五、二七二	五八四、四〇五	△	三〇、八六七

輸移入額右表ノ通りニテ、前年ニ比ヘ八十二萬八千餘斤三萬餘圓ノ増進ヲ告ゲテキル。地方ノ開發ニ伴ヒ年々需要増加ノ趨勢ニアリ、殊ニ本年建築工事ノ活況ト相場ノ下落トハ、相俟ツテ入荷ヲ促シタ。

移入額右表ノ如ク、前年ニ比へ、五十三萬三千餘斤二十二萬五千餘圓ノ増進ヲ呈シテキル。主タル需要者ハ
 遞信局鐵道及電氣會社ヲアルカ、本年中特ニ入荷ノ劇増ヲ告ケタノハ、通信交通設備ノ改善補修ニ伴フ需要
 ノ劇増ニモ因ルカ、又金剛山電鐵ノ擴張工事に用トシテ、纏リタル需要アリシコトモ一因ヲナシテキル。古河、
 住友、日本、藤倉等諸會社ノ製品カ多ク移入サレ、相場ハ、供給ノ増加ト、原料銅ノ不況ニ周年弱合ミニ
 テ、昨年ニ比ヘルト、一割乃至二割方ノ下落ヲ示シテキル。
 釜山ニ於ケル市價左ノ如シ。

國別	數												價	額													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		平均	前年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
四種並十四番	二五・二〇	二五・二〇	二五・二〇	二五・〇〇	二五・〇〇	二四・五〇	二四・五〇	二三・五〇	二三・五〇	二二・五〇	二二・五〇	二四・〇一	二四・〇一	二六・六〇	四三〇、三〇九	九五六七〇	三三四六三九										
二種並十四番	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	九・八五	九・八五	九・八五	九・八五	九・七〇	九・七〇	九・七〇	九・七〇	九・八四	一二・七五	四三〇、三〇九	九五六七〇	三三四六三九											
丸打	二五・〇〇	二五・〇〇	二五・〇〇	二四・〇〇	二四・〇〇	二四・〇〇	二四・五〇	二四・五〇	二五・〇〇	二四・〇〇	二四・〇〇	二四・四二	二八・三〇	四三〇、三〇九	九五六七〇	三三四六三九											
二ヶ撚	一九・五〇	一九・五〇	一九・五〇	一九・五〇	一九・五〇	一九・五〇	一九・五〇	一九・五〇	一九・五〇	一九・五〇	一九・五〇	一九・五〇	一九・六〇	四三〇、三〇九	九五六七〇	三三四六三九											

○鐵道車輛及同部分品

國別	數												價	額													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		平均	前年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
北米合衆國														三八八七九	四四、八九〇	六、〇一一											
英吉利														九九五	八〇八	一八七											
合計														四七〇、一八三	一四一、三六八	三、八八二五											

輸移入額右表ノ如ク、前年ニ比シ三十二萬八千餘圓ノ増進ヲ告ケテキル。○金剛山電鐵用、鐵道局用、咸南與
 地水電工事私設鐵道用等ニ入荷増進ヲ呈シタノテアル。

○自動車及同部分品

國別	數												價	額													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		平均	前年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
内地														一〇八五、一八八	四二、八九八	六六三、二九〇											
支那														一〇	一一六	一〇六											
英吉利														七三、三四五	二六、二八二	四二、九三七											
北米合衆國														四六、六二二	四六、八七八	二五七											
佛蘭西														五〇	五二三	四七三											
獨逸														四八三	一	四八三											
加奈														一、一〇五、六九七	五八五、七五八	六一九、九三九											
合計																											

輸移入額前表ノ通りニテ、前年ニ比シ六十一萬九千餘圓ノ増進ヲ呈シテキル。自動車交通ノ普及發達ニ伴ヒ、本品ノ入荷ハ逐年増進ノ勢ヲ示シテ居ルノテアルカ、對外爲替ノ下落ニ連レ、内地ニテモ輸入劇増ヲ示シ、此等内地通關濟品ノ移入多ク、各社ノ賣込競争漸ク劇甚ヲ加ヘツツアル。

○自轉車及同部分品

國別	數		價		額	
	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
内地	—	—	—	—	—	—
支那	—	—	—	—	—	—
英吉利	—	—	—	—	—	—
獨逸	—	—	—	—	—	—
佛蘭西	—	—	—	—	—	—
北美合衆國	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—

輸移入額右表ノ如ク、前年ニ比シ五十二萬七千餘圓ノ増進ヲ告ケテキル。都市商工界ノ競争逐年劇甚ナルト共ニ都鄙朝鮮人間ニ本品普及ノ勢著シキモノアリ、市價ノ下落ニ因リ一層此ノ傾向ヲ甚タシカラシメ、修繕材料トシテノ部分品ノ入荷モ車體ノ増加ニ伴ウテ入増ヲ呈シタノテアル。相場ハ外國品ノ下落竝護謨安等ニ

ツレ、前年ニ比シ約二割方ノ下値ヲ呈シ、ライダー一臺百三十圓、エムパイヤー同百四十圓、ケント同百圓、クリミヤ同九十圓内外ヲ唱ヘタ。

○諸機械類

國別	數		價		額	
	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
内地	—	—	—	—	—	—
支那	—	—	—	—	—	—
露亞細亞	—	—	—	—	—	—
英吉利	—	—	—	—	—	—
獨逸	—	—	—	—	—	—
北米合衆國	—	—	—	—	—	—
瑞典	—	—	—	—	—	—
加爾各答	—	—	—	—	—	—
白耳義	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—

輸移入額右表ノ如ク、前年ニ比シ二百萬七千餘圓ノ増進ヲ告ケテキル。十二年ノ東都震災後諸事業ノ緊縮ニテ爾來本品ノ輸移入兎角不振ノ状態ニアツタカ、本年ハ威南方面ノ水力電氣事業ヲ初メ、企業界漸ク活氣ヲ呈スルト共ニ本品ノ輸移入額モ増進ヲ示シテキル。試ミニ種類別ニ、且ツ輸入ト移入トニ大別シテ、前年ト比照スレハ左ノ如クテアル。

國別	移入 (圓)		輸入 (圓)	
	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
汽罐同部分品及附屬品	二九九,九六〇	一三三,七八七	一〇五,四〇八	一四,四七三
鐵道機關車及機車	一五六,三五〇	一一,六〇〇	二〇五,一六一	二六〇,〇〇〇
關車用炭水機車	九四,〇四三	二一,八八一	—	六一一
蒸氣機關	—	—	—	六一一
發電機電動機類	九三〇,五七三	三三三,二五二	二六,〇二三	二八,〇四九
其他原動力機	九六四,三三五	八〇一,九九七	五八,〇三六	六〇,〇一四
縫衣機同部分品及附屬品	八九,一三九	四七,〇九九	三三九,八九四	三二七,五九四
唧筒	四三七,六七五	二九五,三三七	三,〇七〇	三九,六八五
金屬工及木工機械	一一四,〇〇三	六九,七九一	八,六八六	二五,五五二
澆澆機	三,〇〇〇	—	—	二,九八六
印刷機	六九,三三四	五六,〇六〇	—	五五〇
精米機	一五一,七六三	一四〇,一七四	—	—
綿線機及打綿機	六〇,一七二	八一,六九二	一五八,一〇二	三三〇,九〇六
合計	六八五六,二〇四	四,六七二,二七	一,一八三,九七七	一,〇七〇,四一九
製繩機及製筵機	七九,一六五	七〇,〇七八	九〇,八七	—
其他機械及同部分品	三,四〇六,六一二	二,六二七,四七九	七,七九一,三三	—
合計	六八五六,二〇四	四,六七二,二七	一,一八三,九七七	一,〇七〇,四一九

一六二,八〇四

○木材及板

國別	數量		價額 (圓)	
	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
內地	—	—	—	—
支那	—	—	—	—
露亞細亞	—	—	—	—
北亞細亞	—	—	—	—
暹羅	—	—	—	—
合計	—	—	九七五,四一三	八〇八九,五四一
大正十五年	—	—	三三四四,六四八	二,二六八,八六七
大正十四年	—	—	六〇八二,七四〇	五,六九八,二九一
増減 (△)	—	—	二二六,一九二	一〇三,九一〇
大正十五年	—	—	四八,八五九	一八,四七三
大正十四年	—	—	二,九七四	—
増減 (△)	—	—	—	—
大正十五年	—	—	—	—
大正十四年	—	—	—	—
増減 (△)	—	—	—	—

輸移入額前表ノ如ク、前年ニ比シ百六十一萬五千餘圓ノ増進ヲ告ケテキル。而シテ今之ヲ種類別ニ、且輸入ト移入トニ大別シテ、前年ト比較スレハ左ノ如クニシテ、原本ハ移入ニ於テ増加ノ反面輸入ニ於テ減少ヲ示シ、挽材ハ移入輸入共増進シ、板ハ移入少シク不振ナリシモ輸入ハ少カラヌ増加シ、枕木ハ移入ノ増加著シイノテアル。

種別	單位	數量		價額	
		大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
移入	立方尺	二二四九、三五〇	一七八七、三六八	四六一、九八二	一、四六一、七五三
原	立方尺	三三〇、一七九	二二五、三九〇	九四、七八九	二、一〇八、六〇三
板	坪	一五八、六〇二	一六七、八七五	九、二七三	二、一八、六三四
枕	筒	三四七、三四四	四二、七四六	三〇四、五九八	四四二、六〇〇
其他					六三、〇八四
計					三三五、九四六
輪入	立方尺	四五五、三六二	五七〇、二四三	一一、二六六、一六	二、二六八、八六七
原	立方尺	一、八三九、三三四	一、二七四、八九九	五六四、四三五	三、三七二、九三九
板	坪	七三四、〇〇八	四〇九、二〇一	三二四、八〇七	一、三六五、七〇四
枕	筒	六五、五五八	二〇、〇一七	四五、五四一	九二九、一〇三
其他					二二、五九六
計					二、三、三三三
増減(△)					△
増減(△)					七八四、五五一

而シテ前表中原木ノ移入増加ハ、主トシテ新義州製紙工場ノ原料木材ノ入増ニ依ルモノテアル。蓋シ次ニ述フルカ如ク本年鴨綠江材ノ着筏順調ヲ缺ケル爲樺太材ヲ以テ補給セシモノト思ハレル。原木輸入ノ減少ハ新

義州方面鴨綠江材ノ輸入ハ殖エタケレトモ、北鮮豆滿江材ノ入着劇減ヲ呈セシニ由ル。後者ノ劇減ハ、主トシテ江水ノ不足ニ原因セルモノノ如ク、此ノ點ハ鴨江材モ同様ナリシノミナラス八月ノ洪水テ流失セシモノモ少ナクナカッタノテ本年ノ新義州着筏高ハ僅ニ二十九萬尺縮テアリ、前年ノ四十萬尺縮トハ著シイ減少テアル。而シテ安東側亦同様着筏少ナカッタケレトモ、銀ノ下落カ取引ヲ有利ナラシメ、且東京方面ト角材及ヒ電柱材等ノ引合多カッタノテ、此ノ方面テハ自然若干ノ入増ヲ呈シタノテアル。因ニ本年中安東側ノ着筏高ハ探木公司直營材七百十七臺料機材二千二百九十七臺合計三千十四臺ニシテ前年ノ四千九百三十五臺ニ比較シ著シイ減少テアル。

本年中安東方面ヨリ輸入セル原木ノ仕向先ハ大體左ノ通りテアル。

新義州	京	龍	平	草	北	大	仁	宣	鎮南浦	船橋里	群	郭	開	木	沙里院	裡	元	釜	山	嶺	美	南
一、二六六、二五九	一〇一、五一〇	九五、一八八	六三三、二九六	四四、七三〇	二五、四二二	二二、一八一	二二、三八二	一一、〇二九	二〇、四四〇	九、五二九	九、六三二	一〇、六〇八	七、七九五	一〇、二五二	八、五四一	一〇、二〇七	一〇、一〇〇	八、九八四	六、九九〇	六、二七四		

古 邑

六、四八六

其他鐵道沿線 五一、七五〇

計

一、八三二、七八五

備考 京城、平壤、大邱、仁川及鎮南浦ハ其ノ地通關品及新義州通算品ヲ含ム

次ニ豆滿江材ハ依然、土里及龍堂ニテ輸入手續ヲナスモノカ多ク、而モ其ノ大部分ハ北支那方面ニ再輸出セラレテキル。本年中右二個所ノ輸入額ハ百八十四萬九千五百六十五立方尺ニテ、雄基及清津港ノ再輸出額百五十八萬三百五十一立方尺テアル。

挽材ニアリテハ、移入九萬四千餘立方尺ノ増加テアルカ、這ハ專ラ釜山港ニ於テセルモノテ内地ニテ通關濟ノ米國角材ナトヲ主トシ純内地材ハ杉切流松角材等少數ニ過キナイ。而シテ輸入ニ於テ五十六萬四千立方尺ノ増加ヲ示シテキルカ、之ハ全然安東方面カラノ入増ニ屬スル。安東ニ於ケル製材界ハ東都震災以來銀高ニ厄サレテ、多年苦境ニ呻吟シ、大正十三年カラ同十四年上半年期ニ掛ケテハ殆ント休業ノ状態ニ陥ツタカ十四年下半年期ヨリ、銀價ノ落調ト、内地木材界ノ好轉トニ稍愁眉ヲ開キ、本年ニ入ツテハ銀價相踵イテ下落シタノテ、年初カラ漸ク操業採算ノ圈内ニ入り、各工場ハ、一齊ニ活動ヲ開始シ、本年ノ流筏不振ニモ拘ラス、前年ノ持越資材ト南支那向ケ原木減少トニテ資材ノ調節ヲ圖リ、操業工場二十、製材高五十三萬一千五百三十三尺締五百九十五萬九千四百九十九圓(製函、木摺、板ヲ含ム)ヲ計上シ、前年ニ比シ工場一、製材高二十二萬六千八百四尺締二百七十萬九千五百五十一圓ノ激増ニテ近來ノ好況ヲ示シタ。(安東ノ製材工場ハ昭和二年三月一日同地商業會議所調現在工場數二二、資本金三、五三七、〇〇〇圓動力電氣一、四九八馬力蒸氣一、二四〇馬力一日製材能

力三、九一〇尺締使用人員内地人九四人朝鮮人二二人支那人一、四九七人計一、六〇三人十五年中製材高製材五〇六、七八三尺締五、七二七、一一一圓製函二二、五三〇尺締二二三、〇三八圓木摺一、七四〇尺締九、〇

〇〇圓テアツテ内休業工場二)而シテ四月カラ製材電力ノ値下ヲ見向フ一箇年特惠料率ニ依ツテ供給スルコトトナリ、銀價安ト相俟ツテ、原木一割値上モ殆ント故障トナラス、鮮内ノ需要ハ土木建築界ノ好況ニ伴ウテ昂進シ、内地ニ於ケル米材在荷ノ消化ハ概シテ一般木材界ニ好反響ヲ呈シ、彼此相呼應シテ入荷ヲ促進シタノテアル。尙滿洲方面カラハ安東材ノ外ニ支那材トシテ長春、帽兒山、吉林等ノ挽材モ輸入サレルケレトモ、極メテ寥々タルモノテアル。本年中安東方面カラ輸入サレタ挽材ノ分布狀況ヲ見ルニ左ノ通りテアル。

龍山	二四六、四二五 ^{立方尺}	京城	一九五、四九六 ^{立方尺}	平壤	一三三、三五二 ^{立方尺}
仁川	八八、〇〇六	木浦	七三、一一九	太田	六五、七二七
光州	五六、〇七四	草梁	五二、七〇〇	開城	四五、三三五
沙里院	四六、八九七	大邱	三九、五〇五	裡里	三五、九六三
群山	六九、三七八	新義州	六三、三〇九	元山	二〇、三七〇
天安	二三、九四七	鎮海	二一、二四七	馬山	二一、三四四
金泉	二〇、四五七	烏致院	一九、三二八	黃州	一六、八一八
清州	一六、〇五〇	釜山	三五、八一七	鎮南浦	三四、三二九

井 邑	一三、九三一	金 堤	一三、三三四	全 州	一三、九七九
兼二浦	一一、三四〇	羅 州	九、二六〇	新泰仁	八、六四八
价 川	八、〇八一	密 陽	七、七四八	晋 州	一三、七九一
宣 川	一三、八六八	江 景	七、六五九	水 原	六、九〇九
西水庫	六、〇九三	松汀里	五、五八四	三浪津	三、一一五
信 川	五、一九三	禮 山	四、八四二	定 州	四、六八六
咸 悅	四、二五六	洛東江	三、八九五	溫 陽	四、三八八
安 城	四、〇五二	枇 峴	二、九七六	郭 山	三、〇〇八
中 和	三、九一〇	店 村	三、六二八	新安州	四、一七六
瑞 興	三、三二三	其他朝鮮内	六〇、三三四	小 計	一、六九六、九九〇
内 地	七、八一二	合 計	一、七〇四、八〇二		

備考 新義州以外ノ開港地ノ計數中ニハ其ノ地通關品及新義州通關品ヲ含ム

次ニ板ハ移入ニ於テ稍減少シテキルカ先ツ大差ナイ所、之ニ反シ輸入ハ前年ニ比シ三十二萬四千餘坪殆ント入割ノ劇増ヲ呈シテキル。コレ亦專ラ安東材ノ入増ニ由ルモノテ、其ノ事情ハ挽材ニ於ケルト略同様テアリ殊ニ昨年ノ輸入カ極端ニ不振ニシテ例年ノ半額ニモ達シテキナカッタノテアル。本年中安東方面カラノ板ノ

輸入仕向先ハ左ノ如クテアル。

龍 山	一三七、六四五	京 城	六二、七九一	平 壤	五〇、〇九四
鎮南浦	二五、九五〇	仁 川	二二、九三二	釜 山	二二、四二三
木 浦	二六、二一五	新義州	一八、七九四	草 梁	四〇、六四四
光 州	二〇、五九三	太 田	一六、二六三	馬 山	一〇、一八九
裡 里	一〇、一六七	沙里院	一五、二五一	開 城	一一、四八八
群 山	一七、三二五	南 市	三、〇七六	宣 川	四、九五八
兼二浦	四、一一一	全 州	九、六二七	新安州	三、二六二
金 泉	六、八五九	大 邱	二二、五五一	黃 州	五、一九五
古 邑	五、七六八	水 原	四、八一二	天 安	六、一五三
信 川	三、〇三二	鳥致院	七、五二二	金 堤	四、三八三
井 邑	四、四五六	晋 州	六、一三三	元 山	八、八五〇
清 州	三、九〇一	密 陽	三、〇八〇	其他朝鮮内	五八、三〇〇
小 計	六八五、七九三	内 地	一三、〇九一	通 計	六九八、八八四

備考 新義州以下ノ開港地計數ハ其ノ地通關品及新義州通關品ヲ含ム

以上原木挽材及板ノ内本年新義州税關ニテ通關セルモノノ材種別計數左ノ如クテアル。

種類	原木		木		挽		材		板	
	數	量	額	價	數	量	額	價	數	量
紅松	九六〇	八八五	六〇二	四六六	七二二	八四四	八八三	三九八	二七〇	七五九
及落葉松	六三九	三五七	五二二	四七五	九五八	一七〇	一一〇	八七九	四〇三	八七三
柳	一一一	六七三	六〇	〇六〇	一六〇	九	一、八二三	六、四九六	六、四九六	二一、〇六二
鹽	七六	二七三	四九	七二二	一八	八〇五	二六	〇五四	一一	三八三
胡	一〇	九八四	六	八三八	二二	五	二七〇	二七〇	四二	七
楡	二	三五八	一	〇一九	五	五	九四	九四	一	一〇
黃										
梨										
合計	一、八一	五三〇	一、〇四	五七〇	一、六九	一、七〇八	二、〇三	一、五二八	六、九三	〇五〇
									一、三三	五三五

因ニ豆滿江方面カラ輸入サレル原木ハ材種別詳カナラサレトモ大部分紅松テ多少ハ白楊、杉松及胡桃材モアル。次ニ枕木ノ移入ハ釜山及仁川、輸入ハ新義州テ以上三箇所ノ外入荷皆無テアツタ。公私鐵道修築用トシテ各方面ヘ分散サレ、北鮮方面ノ需要最モ多カツタ様テアル。轉シテ本年中ノ木材相場ノ變遷ヲ觀察スルニ、朝鮮内ノ相場ハ、曩ニ輸移出ノ項ニ於テ示シタル所ニ依リ窺ハレルヲ以テ茲ニハ輸入材ノ仕入地安東ニ於ケル相場ヲ掲ケル。

先ツ原木ニ就テ見ルニ、年頭以來ノ銀安ニツレテ、逐月概シテ落調ヲ辿リ、紅松年初才當邦貨換算九錢一厘二毛ノモノ十月ニハ七錢一厘三毛ヲ唱フル有様テアツタ、挽材及板亦概ネ之ニ連レテ下落シタノテアルカ原木程落調カ著シクナカツタ。種類別ニ月別相場ヲ掲クレハ左ノ如シ。

(安東相場)	(原木)		紅松		杉松		落葉松		(挽材)	
	並	小節	並	小節	並	小節	並	小節	並	小節
一月	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
二月	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
三月	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
四月	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五月	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
六月	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
七月	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
八月	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
九月	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
十月	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
十一月	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
十二月	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
平均	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
前年	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四

		(安東相場)													
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
國	別	(板四分)													
		無節—同	二五〇〇	二六〇〇	二四五〇	二六〇〇	二四五〇	二四五〇	二四五〇	二四五〇	二四五〇	二四五〇	二四五〇	二四五〇	—
内	地	並—坪													
		一八四	一七五	一六九	一六九	一六九	一六九	一六九	一六九	一六九	一七二	一八六	一八九	一八九	一七五
内	地	紅松													
		無節—同	二九四	二九四	二七〇	二七〇	二八八	二九七	二九七	三〇三	三〇三	三二七	三三三	三三三	三〇〇
内	地	並—同													
		一五五	一四七	一四〇	一四〇	一四四	一四七	一四七	一四七	一四七	一四七	一四七	一四七	一四七	一四六
内	地	小節—同													
		二四八	二四八	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三
内	地	無節—同													
		三一〇	三一〇	二八〇	二八〇	二八九	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
備考		安東相場ハ鎮平銀建ナルヲ邦貨ニ換算シ單位モ原木ハ寸(一寸角八尺五寸)ナルヲ本邦尺ノ百才ニ換算シタノテアル													

○洋傘

國	別	數		量(箇)		價		額	
		大正十五年	大正十四年	增	減(△)	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
内	地	二七六、三四七	二五三、五八五	二二、七六二	五九、九三二	五五七、九三三	三四〇、一八		

移入額右表ノ通りニテ、前年ニ比シ二萬二千餘箇三萬四千餘圓ノ増進ヲ告ケテキル。昨年中仕入手控ニテ持越品少ナク且ツ賣行モ前年ヨリハ幾分好況ヲ呈シタノテアル。市價ノ低落ニテ京城方面荷動キヲ促カサレ殊

ニ昨年來ノ流行品タル洋杖型握柄ノモノノ賣行カ良好テアツタ。

國	別	數												價		額	
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年		
内	地	仁川															
		二〇、五〇〇	二〇、五〇〇	二〇、五〇〇	二〇、五〇〇	二〇、五〇〇	一九、五〇〇	一九、五〇〇	一九、五〇〇	一九、五〇〇	一九、五〇〇	一九、五〇〇	一九、五〇〇	一九、五〇〇	一九、五〇〇	一九、五〇〇	
内	地	釜山															
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
内	地	元山															
		二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	
内	地	京城															
		一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	
内		一一、四〇、九四七	四一〇、三三四	七三〇、六二三	二七六、〇五八	一一一、九五三	一六四、一〇六										

○藁

國	別	數		量(枚)		價		額	
		大正十五年	大正十四年	增	減(△)	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
内	地	一一、四〇、九四七	四一〇、三三四	七三〇、六二三	二七六、〇五八	一一一、九五三	一六四、一〇六		

移入額右表ノ如ク、前年ニ比シ七十三萬餘枚十六萬四千餘圓ノ増加テアル。朝鮮農家ノ副業生産品ノ増加ニ伴ヒ、内地産品ノ移入ハ、年來減退ヲ辿リ來ツタノテアルカ、今尙北鮮地方ノ農家並沿岸漁場ニ於テ相當ニ使用サレテ居ル。本年入荷増進ヲ告ケタノモ、此等方面ノ需要昂進セシニ由ルノテアルカ、朝鮮産力其ノ生産ノ増大見ルヘキモノアルニ拘ラス、販賣組織上ニ缺陷カアルタメカ、需給ノ調節カウマク行カヌ本年出

穀期ニハ品不足ニテ相場暴騰ヲ來シ、年末一時ニ内地込ノ流入ヲ促シタノテアル。
釜山ニ於ケル相場左ノ通り。

(二相二十五枚建)	一月	二月	三月	四月	五月	七月	平均	前年平均
播州産四斗呷	九四五 ^円	九五〇 ^円	八七五 ^円	八〇五 ^円	八七五 ^円	九二〇 ^円	八九六 ^円	九四八 ^円

○豆糟肥料

國 別	數		價		額	
	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年
支 那	二〇,二九四九一	九四五,三五二	一〇,八四一三九	九七二〇,四七七	四,二九三,七九七	五,四二六,六八〇
露 亞 細 亞	一一,四八〇	—	一一,八八〇	六五,〇〇〇	—	六五,〇〇〇
合 計	二〇,四一,三七二	九四五,三五二	二〇,九六,〇一九	九,七八五,四七七	四,二九三,七九七	五,四九一,六八〇

輸入額前表ノ如ク、前年ニ比シ百九萬六千餘擔、五百四十九萬一千餘圓ノ劇増ヲ示シテアル。本品ハ單リ朝鮮ニ於テ需要セラレルモノノミナラス、内地ノ需要品ニシテ朝鮮テ輸入手續サレル額モ相當ニアル。本年ハ爲替相場ノ關係カラ、市價低落ヲ來シ内鮮兩地共ニ農家ノ買進ヲ報シタノミテナク、殊ニ朝鮮テハ産米増殖計畫ノ樹立ニ伴ヒ、年來ノ金肥施用増加ノ趨勢カ農家ノ自覺ト當局ノ獎勵ト相俟ツテ一段顯著トナツタノテ本品ノ入荷ハ空前ノ盛況ヲ以テ始終シタノテアル。

試ミニ最近五年間ニ於ケル輸入額及ヒ其ノ内、内地へ移出サレタモノト朝鮮ノ需要ニ屬スル分トノ額ヲ掲クレハ左ノ如クテアツテ、僅々五年間ニ鮮内需要高三倍ニ増シ十年前以前金肥施用ノ寥々タリシ時代トハ全然農家ノ意氣込カ違ツテキルコトカ知ラレル。

年 次	輸 入 額		移 出 額		差 引 鮮 内 消 費 額	
	數	價	數	價	數	價
大 正 十 一 年	一,二八九,六九五 ^擔	五,三八七,八〇六 ^円	九〇一,九〇二 ^擔	三,七六〇,九三二 ^円	三,八七,七九三 ^擔	一,六二六,八七五 ^円
同 十 二 年	一,六五九,九八六	七,三〇〇,九七八	一,一〇〇,〇三六	五,七二八,九五八	三,五七,九五〇	一,五七二,〇一〇
同 十 三 年	一,一八八,三三八	五,一三三,六〇四	六二一,八五一	二,六三〇,九五九	五七六,四七七	二,五〇二,六四五
同 十 四 年	九四五,三五二	四,二九三,七九七	一六二,二七六	八二九,〇二〇	七八三,〇七六	三,四六四,七七七
同 十 五 年	二〇四一,三七二	九,七八五,四七七	七六七,六七二	三,六一四,七八四	一,二七三,六九九	六,一七〇,六九三
(備考十年前)大正六年	三八,二九八	一〇一,一三二	—	—	三八,二九八	一〇一,一三二

本品ハ産地トノ關係カラ、主トシテ新義州テ輸入手續ヲ了シ各地ニ分布サレテキル。試ニ本年ノ新義州通關額ヲ舉クレハ、百十七萬三千餘擔ニ達シ、次ハ龍巖浦ニシテ七十一萬三千餘擔ヲ算シ、此ノ二者ヲ以テ、朝鮮輸入全額ノ九割二分強ヲ占メテ居リ、新義州ノ分ハ極少量ヲ除キ朝鮮内ノ輸入、龍巖浦ノ分ハ全部内地向ト見テ大差ナイ。今新義州通關品ノ仕向先別ノ額ト龍巖浦以外ノ各港通關額トヲ併セテ、道別輸入額ヲ見ルニ左ノ如クテアル。而シテ左表ハ各道ノ輸入額テアツテ實需額テハナイ。蓋シ道ト道トノ間ニ取引サレ移動

第五 輸移入重要品

スル額換言スレハ内國商業ニヨル分布額カ明カタナイカラ、確實ニハイヘナイケレトモ、道別實需額ニ近似シタ數字ヲアラウト思ハレル。

地方別	輸入	地方別	輸入	地方別	輸入
京畿道	一四三、三三四	鳥致院	七、三三八	全羅南道	一六〇、〇三七
内仁川	三六、四七七	太田	七、〇〇四	内長城	一三、四四二
京城及龍山	三四、八九四	黃澗	六、七二一	松汀里	二九、七二一
水原	一九、三八一	其他	一八、五六三	羅州	一〇、三四〇
金城村	七、二四一	全羅北道	二六七、二五四	光州	六、二〇四
烏山	七、三三八	内裡	五六、九二四	潭陽	七、三三八
平澤	九、五五八	群山	五八、八七五	榮山浦	二七、一三六
其他	二八、四三五	地境	二、四四九	鶴橋	六、七二六
忠清北道	一一、四〇八	參禮	一一、一四三	木浦	五六、六五五
内清州	九、八三三	全州	六、二〇四	其他	二、五八五
其他	二、五八五	芙蓉	七、三三八	慶尙北道	一三〇、七五九
忠清南道	七、六八五	金堤	三、五三七	内金泉	一七、八三〇
内論山	一一、九二五	新泰仁	三六、九五九	龜尾	六、七二一
江景	八、七八九	井邑	二、三〇〇	倭館	九、八三三
天安	一五、二四五	其他	一一、九二五	邱	四〇、五四九

地方別	輸入	地方別	輸入	地方別	輸入
其他	五五、八三六	載寧	九、八二三	江原道	二三、五六四
慶尙南道	一一〇、四一一	信川	八、七二一	内鐵原	二〇、九四八
内密陽	七、三三八	其他	五、二二七	其他	一八、七三三
勿津	二五、〇六八	平安南道	六、一三〇三	其他	二、二二五
龜浦	二四、〇六八	内漁波	五、一七〇	咸鏡南道	三〇、三七八
釜山及草梁	八七、五六三	平壤	二、九九二	内新興	八、〇〇七
洛東江	一三、六九四	鎮南浦	一九、〇六六	咸鏡北道	八五、二四
進永	一七、三三三	其他	一六、〇七五	其他	一三、八四七
馬山	一〇、三三八	平安北道	九五、四八一	咸鏡北道	八、二五〇
晋州	五、六八七	内新義州	二九、一一三	内龍堂	五、九九三
其他	一三、四四二	南市	二四、四三八	其他	二、二五七
黄海道	六、五六一	古邑	七、四一五	通計	一一、七三三、六九九
内沙里院	三八、三三九	嶺美	一〇、九五二		

本品ハ現今主トシテ安東産品ヲアルカ、四平街、長春、鐵嶺等ノ奥地物モ多少ハ入荷カアル。本年滿洲方面テハ大豆ノ作柄カ旱害ノ爲メニ、減收ヲ報セラレタニ拘ラス、安東ニ集散スル河豆（鴨綠流下品ニ對スル安東市場テノ稱呼）火車豆（鐵道ニ由ルモノ同上）馬車豆（馬車ニ由ルモノ同上）共廻着旺盛ニテ、朝鮮筋ノ買進ミニ、一齊操業活氣ヲ帶ヒ、産額五百四十六萬七千五百八十五枚ヲ算シ、前年ニ比シ、百六十四萬八千九百枚ノ激増ヲ示シタ。

第五 輸移入重要品

物カ多イ。相場左ノ如クテアル。

(十貫入一俵建)			一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
釜山	内地	七〇〇	七〇〇	七二〇	七〇〇	六七五	六八五	六八〇	六五〇	五五〇	五五〇	五五五	五五〇	六四二	七二三	
	國産	五九〇	六〇〇	六〇〇	五八〇	五七五	五七〇	五五五	五一〇	五一〇	五一五	五一五	五二〇	五五九	六九七	
木浦	獨逸産	六二〇	六二〇	六二五	六二〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	五九〇	五三〇	五四〇	五四〇	五四〇	五八五	六九〇	
	票	—	七三五	七二〇	七二五	六九五	六九〇	七〇〇	七二五	—	—	—	—	—	—	
計			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

第六 金銀貨幣及同地金ノ出入

地金銀ノ貿易額ニツイテハ、劈頭ニ一言セシ如クテアルカ、更ニ金銀貨幣ト併セテ其ノ狀況ヲ見ルニ、本年
 中輸出七十四萬五千餘圓、(輸出皆無)、輸入四十六萬九千餘圓ニシテ、移出テハ、金地金ノ五百八
 十四萬六千餘圓ヲ主ナルモノトナシ、銀貨ノ百五十九萬四千餘圓之ニ亞キ、外ニハ少額ノ銀地金アルノミテ
 アル。輸入テハ、金地金ノ二十二萬三千餘圓及ヒ銀地金ノ十四萬五千餘圓カ主ナモノニテ、外ニ外國銀貨
 六萬二千餘圓ト銀貨三萬九千餘圓ヲ計上シテキル。
 今之ヲ前年ト比較スルニ、輸出ニ於テ、金地金二百十九萬六千餘圓ノ増進ヲ呈シテキルカ、之ハ全ク朝鮮
 産金ノ増加ニ依ルモノテ、鑛務當局ノ鑛産調査ニ從ヘハ、本年ノ金産額ハ數量一、九〇九、〇〇九々價額七、

九〇四、六五六圓ニシテ、前年ニ比シ六五七、六六九々一、八一六、一二七圓ノ増進ヲ示シ、生産恢復ノ道
 程ニアルコトヲ知ラレル。銀貨ノ移出ハ九十萬二千餘圓ノ増進ヲ示シ、改鑄ノ爲メノ送荷ト見ラレル。
 輸入ニ於テ金地金ハ前年ニ比シ、六萬七千餘圓ノ減少ヲ示シテキルカ、這ハ都市方面不況ニテ細工物ノ賣行
 思ハシカラサルニ由ルモノ、同シク細工物ニ使用サレル外國(主トシテ支那)銀貨及銀地金モ兩者合計ニ於テ
 六萬四千餘圓ノ減少ヲ示シテ居ル。之ヲ内別ケスレハ、支那貨等ノ輸入ハ減シテ内地ヨリ地金ノ移入カ殖エ
 テキル、支那貨ノ減少ハ、銀價低落ノ爲メ支那官憲カ其ノ流出ヲ恐レテ之カ防止ニ努メ、地方ニヨリテハ輸出
 禁止ヲ實施セシカ如キ狀況ヲアツタカラテ、美術品業者ハ之ヲ内地ヨリノ地金ノ買入ニヨリ補ツタモノト思
 ハレル。次ニ本邦銀貨ニ於テ二十萬八千餘圓ノ減少ヲ呈シテキルカ之ハ内地ヨリ補助銀貨ノ配給減少ヲ示セ
 ルモノテアル。

以上各種別ニ輸移出入額ヲ、前年ト對照スレハ左ノ如シ。

輸移出金銀貨幣及同地金

種別	大正五年			大正四年		
	輸	移	出	輸	移	出
金地	—	五八四六、一五四	—	—	三六四九、三三三	—
銀貨	—	一、五九四、六八八	—	—	六九二、一五九	—
銀地	—	—	—	—	—	—
通計	—	一〇、八〇七	—	—	一六、七四一	—
合計	—	七、四五一、六四九	—	—	四、三五八、二三三	—

輸移入金銀貨幣及同地金

種別	大正十五年			大正十四年		
	輸	入	合計	輸	入	合計
金地	一三三、八二七	九一、一三七	二二五、〇〇四	八〇、三九六	二二一、五三三	一九一、九二八
銀貨	一七、四〇〇	二一、八五一	三九、二五一	一、六五〇	二四六、〇〇〇	二四七、六五〇
支那及露國銀貨	六、一〇〇	—	六、一〇〇	一七、一四七	—	一七、一四七
銀地金	一九、二二二	二五、八一〇	四四、〇三二	七、一三一	九、八六九	一九、〇〇〇
通計	二三〇、四四九	二三八、九九八	四六九、四四七	二六〇、五八四	五四九、四〇一	八〇九、九八五

次ニ金銀ノ出入額ヲ港別ニ前年ト比較スレハ左ノ如シ。

金銀出入額港別二年比較

港別	大正十五年		大正十四年	
	輸	入	輸	入
仁川	—	—	三、六九八	二〇五、一四七
京城	—	—	一八四、二九五	八九、〇五六
群島	—	—	—	三三、一〇〇
合計	—	—	—	—

種別	大正十五年		大正十四年	
	輸	入	輸	入
元山	—	—	—	—
清津	—	—	—	—
釜山	—	—	—	—
木浦	—	—	—	—
大邱	—	—	—	—
新義州	—	—	—	—
陸境	—	—	—	—
不開港	—	—	—	—
通計	—	—	—	—

翻ツテ最近十年來ノ推移ヲ見ルニ、地金銀ノ輸移出ハ、歐洲戦争ノ初期マテハ、朝鮮産金ノ相當多額ヲ算セシニヨリ、之カ移出比較的巨大ナルモノアリシニ、中途物價騰貴ノ悪影響ヲ受ケ、金山ノ疲弊甚シクナリシタメ、十年前ノ大正六年ヨリ、大正八年マテハ逐年不振ヲ示シテキタ。唯大正九年ノ銀價暴落、詳言スレハ銀對金價騰貴ノ爲、滿洲方面産金塊ノ輸入促進セラレ、著シク巨額ノ流入ヲ見タト同時ニ、之レヲ内地ニ積送リタル結果、移出モ偶然異常ノ膨脹ヲ呈シ、爾來再ヒ出減ノ一途ヲ辿ツタノテアル。然レトモ輓近物價ノ下落ハ、漸ク採算點ニ入レル金山ノ増加ヲ來サシメシモノノ如ク、本年ハ著シク産金界ノ好機運ヲ示スト共ニ之カ出増ヲ告ケルニ至ツタノテアル。

一面朝鮮ニ於ケル地金銀ノ輸移入ハ、既記大正九年ニ於ケル偶然ノ現象以外ハ全ク美術品細工用材料ノ需要消長ニ伴フモノテ、ソレニ朝鮮産金銀ノ市場出廻並ニ手持品ノ多寡モ手傳ツテ年々増減ヲ示シテキルトイフノ外特記スヘキモノナイ。

右ノ外金銀貨幣ノ出入モアルカ、輸移出ハ多ク改鑄ノ爲、内地ヘノ輸送、輸移入ハ新銀貨ノ配給移入テアル。

此ノ外ニ旅客ヤ内地出漁船夫等ノ携帶シテ來ルモノモアリ、此等ハ計數詳カタナク、銀貨出入ノ權衡ニ於テ毎年概シテ出超ヲ呈シテキル點ヨリ逆推シテ統計不明ナル携帶移入超過ノ少ナカラサルヲ窺ハレルノテアル。

金銀貿易額十年對照

年次	輸 移 出			輸 移 入		
	金銀貨	外國金銀貨	地金銀	金銀貨	外國金銀貨	地金銀
大正六年	一五、七九九	五、二二六	九、六四八、一三四	二八、六八五	八、一五二	一七、八九八
同 七年	—	—	六、〇三三、六六二	六八五	二六八	三六、九九八
同 八年	—	二、九三〇	四、四一五、七二九	二、四七一	八六一	一、六三五、六五〇
同 九年	三、四二五	—	一三、八三九、四五一	八〇	—	一九、二八八、六九二
同 十年	六、一五二	二五、五〇〇	七、二八三、〇一九	—	三〇、九〇四	二、五〇九、五八〇
同 十一年	二二、五二二	—	三、九七三、九一七	三八七、三〇〇	五、六六四	七、五六六、九二
計	—	—	四、一八九、〇三八	—	—	一、一四九、六五六

同 十二年	九九七、九六〇	—	五、五九五、二六六	六五九、七六五	一一、八六七	三、八六四、三六	一、〇五八、〇六八
同 十三年	一、五二五、七七七	—	四、二二一、三二九	五、七三六、九〇六	六、三〇四	一、二三八、一六〇	一、五九一、四六四
同 十四年	六九二、二五九	—	三、六六五、九六三	四、三三八、一二二	二四七、六五〇	一七、四〇七	三九〇、九二八
同 十五年	一、五九四、六八八	—	五、八五六、九六一	七、四五一、六四九	三九、二五一	六、一〇一〇	三六八、九六六
計	—	—	—	—	—	—	四、六九二、四七

第七 船舶ノ出入

本年中内地及外國貿易船舶ノ出入狀況ヲ見ルニ、開港ニ於ケルモノ、並ニ不開港ニ於ケルモノヲ合セ、入港二萬二千五百餘隻六百九十九萬四千餘噸、出港二萬一千六百餘隻六百六十六萬三千餘噸ニシテ、之ヲ前年ト比較スレハ入港ニ於テ、一千八百餘隻、四十三萬九千餘噸ノ増加ヲ示シ、出港ニ於テモ亦、一千五百餘隻五十一萬二千餘噸ノ増加ヲ呈シテキル。之ヲ汽船ト帆船トニ區別表示スレハ左ノ如シ。

船舶入出港隻數及噸數二年比較

入 港 計	隻 數		噸 數	
	汽 船	帆 船	增 減 (△)	增 減 (△)
大正十五年	七、八九五	一、四六五	二、八一	六、七九九、二四八
大正十四年	七、六一四	一、三〇七	—	六、三八〇、二四九
增	—	—	—	—
大正十五年	—	—	—	—
大正十四年	—	—	—	—
增	—	—	—	—
計	—	—	—	—
大正十五年	—	—	—	—
大正十四年	—	—	—	—
增	—	—	—	—
計	—	—	—	—

出 港 計	汽船		帆船	
	隻	噸	隻	噸
大正十五年	七、七九八	六、四七九、六八九	一、三八一	五、九八八、七五二
大正十四年	七、八三七	六、四七九、六八九	一、五四一	五、九八八、七五二
増減(△)	△	△	△	△
大正十五年	七、七九八	六、四七九、六八九	一、三八一	五、九八八、七五二
大正十四年	七、八三七	六、四七九、六八九	一、五四一	五、九八八、七五二
増減(△)	△	△	△	△
大正十五年	七、七九八	六、四七九、六八九	一、三八一	五、九八八、七五二
大正十四年	七、八三七	六、四七九、六八九	一、五四一	五、九八八、七五二
増減(△)	△	△	△	△

次ニ入港船舶ニツキ、之ヲ對外國貿易ニ從事セルモノト、對内地貿易ニ從事セルモノトニ區別スルニ、對外國貿易船ニアツテハ、汽船八百餘隻、帆船一千六百餘隻、三萬四千餘噸、支那型帆船即チ戎克九千三百餘隻九萬二千餘噸ニシテ、前年ニ比ヘ、汽船十餘隻十八萬六千餘噸ノ増、帆船ハ八十餘隻ヲ増セシム噸數却ツテ七百餘噸ノ減、戎克ハ一千四百餘隻一萬五千餘噸ノ増加テアル。

次ニ對内地貿易船ハ、汽船七千餘隻五百七十三萬二千餘噸、帆船三千六百餘隻六萬八千餘噸ヲ計上シ、前年ニ比ヘテ汽船二百六十餘隻二十三萬二千餘噸、帆船七十餘隻四千餘噸ノ何レモ増加テアル、詳細左ノ如シ。

入港船舶國籍別二年比較

國籍	大正十五年		大正十四年		大正十五年		大正十四年	
	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸
外國貿易汽船	四八五	六、四七五、八	四三六	四、四三六、七二	四八五	六、四七五、八	四三六	四、四三六、七二
內地	二四二	一、九八、〇七六	二九三	二、七二、〇〇八	二四二	一、九八、〇七六	二九三	二、七二、〇〇八
朝鮮	七	一、〇八、〇五四	七	一、〇八、〇五四	七	一、〇八、〇五四	七	一、〇八、〇五四
支那	七	五、七、九七七	七	五、七、九七七	七	五、七、九七七	七	五、七、九七七
英吉利	二	一、九、六九三	二	一、九、六九三	二	一、九、六九三	二	一、九、六九三
獨逸	六	一、八、〇六一	六	一、八、〇六一	六	一、八、〇六一	六	一、八、〇六一
和蘭	五	一、九、七、七九	五	一、九、七、七九	五	一、九、七、七九	五	一、九、七、七九
露西亞	一	五、五、六四	一	五、五、六四	一	五、五、六四	一	五、五、六四
諾威	一	五、四、六九	一	五、四、六九	一	五、四、六九	一	五、四、六九
丁抹	一	二、九、六三九	一	二、九、六三九	一	二、九、六三九	一	二、九、六三九
北米合衆國	七	六、六、七八	七	六、六、七八	七	六、六、七八	七	六、六、七八
計	八、五、八	一、〇、六、六、六一	八、三、九	一、〇、六、六、六一	八、五、八	一、〇、六、六、六一	八、三、九	一、〇、六、六、六一
同帆船	三九	二、二、五、六	五	三、三、七	三九	二、二、五、六	五	三、三、七
內地	一、五、〇、八	三、一、一、〇、三	一、五、〇、三	三、一、一、〇、三	一、五、〇、八	三、一、一、〇、三	一、五、〇、三	三、一、一、〇、三
朝鮮	一〇三	八、五、七	三八	五、二、一	一〇三	八、五、七	三八	五、二、一
支那	五〇	一、七、七	六八	一、八	五〇	一、七、七	六八	一、八
露西亞	△	△	△	△	△	△	△	△

國籍	隻		噸	噸	
	大正十五年	大正十四年		大正十五年	大正十四年
外國貿易戎克	一、六九九	一、六四四	八五	三五、三九三	三五、一七五
朝鮮	六五四	六四三	一一	五〇一三	五、六五七
支那	八、五四五	七、〇〇七	一、五三八	八六、六六三	六八、八九三
露西亞	一一七	二四六	二九	七七五	二、〇二八
計	九、三二六	七、八九六	一、四二〇	九二、四五二	七六、五七八
內地貿易汽船	五、二四二	五、一七五	六七	四、三四一、四〇三	四、二六一、二〇九
朝鮮	一、七九五	一、六〇〇	一九五	一、三九一、一八四	一、二九九、一一〇
計	七、〇三七	六、七七五	二六二	五、七三二、五八七	五、五〇〇、三九九
同帆船	三、四八〇	三、三九八	八二	六五、六七一	六一、九七八
內地	一六四	一六八	四	三、〇六四	一、八二九
計	三、六四四	三、五六六	八六	六八、七三五	六三、八〇七
外國貿易船	一、六九九	一、六四四	八五	三五、三九三	三五、一七五
朝鮮	六五四	六四三	一一	五〇一三	五、六五七
支那	八、五四五	七、〇〇七	一、五三八	八六、六六三	六八、八九三
露西亞	一一七	二四六	二九	七七五	二、〇二八
計	九、三二六	七、八九六	一、四二〇	九二、四五二	七六、五七八
內地貿易汽船	五、二四二	五、一七五	六七	四、三四一、四〇三	四、二六一、二〇九
朝鮮	一、七九五	一、六〇〇	一九五	一、三九一、一八四	一、二九九、一一〇
計	七、〇三七	六、七七五	二六二	五、七三二、五八七	五、五〇〇、三九九
同帆船	三、四八〇	三、三九八	八二	六五、六七一	六一、九七八
內地	一六四	一六八	四	三、〇六四	一、八二九
計	三、六四四	三、五六六	八六	六八、七三五	六三、八〇七

更ニ本年中ノ入港船舶噸數ヲ港別ニ示セハ、左ノ如クテアツテ、釜山ハ汽船二百四十三萬三千餘噸、帆船三萬五千餘噸ヲ算シ、全鮮各港ニ冠タルモノ、次ハ仁川ノ汽船八十萬二千餘噸、帆船二萬六千餘噸ヲ大ナルモ

ノトナシ木浦、群山、鎮南浦ノ三港ハ各五十萬噸内外、元山及清津ハ三十萬餘噸、城津ト雄基トハ二十萬餘噸トイフ狀況テアル。詳細左ノ如シ。

大正十五年中入港船舶噸數港別

港別	汽船		帆船	
	外國貿易船	內地貿易船	外國貿易船	內地貿易船
仁川	二一九、四〇一	五八、二六九	二六、一三八	三三八
釜山	二二二、六一七	二、一一一、一〇五	—	三五、〇〇七
元山	三七、二八四	二七、三一七〇	—	九五三
鎮南浦	二二〇、七二二	二八、八二〇	一一、二八一	一五
群山	六七、八四一	四四、一五三	一〇、九二七	四四八
木浦	八九、八四二	四七、四五四	六一五	二六二九
清津	八〇、三四八	二六、七〇二	二、四三六	三八八
雄基	一一、四五八	二二、七二五	—	一〇四
新義州	五八、五六六	一四、四一六	六六三	—
龍巖浦	六七九	三、八六七	五〇、七五二	—
以上開港計	一、〇一〇、五七三	五、〇〇〇、四六九	二二六、八四四	三九、八八二
計	六、〇二〇、四四二	八、〇二〇、九三三	—	一、六六七、三六

港別	汽船		帆船		合計	
	外國貿易船	内地貿易船	外國貿易船	内地貿易船	外國貿易船	内地貿易船
馬山	—	五二,四〇一噸	—	五二,四〇一噸	—	八五,三八噸
兼浦	—	八四〇一噸	—	八四〇一噸	—	一,九三二噸
其	—	—	—	—	—	—
以上不開港計	—	—	—	—	—	—
通計	一〇六,六六一隻	五七三,一五八噸	六七,九二八隻	二二六,八四四噸	六八,七三五隻	一,九五,五七九噸

翻ツテ最近十年間ノ趨勢ヲ見ルニ、本年ノ入港船舶噸數六百九十九萬四千餘噸ハ去ル大正六年ニ於ケル二百五十二萬五千餘噸ニ對シ、殆ント三倍ニ當リ、貿易ノ増加ト、大戰後船腹ノ緩和ニ伴ウテ、大正八年以降逐年増進ヲ辿ツテ來タノテアル。

入港船舶隻數及噸數十年對照

年別	汽船		帆船		合計	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
大正七年	三,二九六隻	二,一五二,〇九六噸	一一,一九八隻	二〇〇,七七九噸	一五,二一四隻	二,三五二,八七五噸
大正六年	三,〇九五隻	二,三八六,二八八噸	八,五三〇隻	一三九,四二二噸	一二,六一五隻	二,五二五,七〇九噸
同	—	—	—	—	—	—

年別	汽船		帆船		合計	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
同	—	—	—	—	—	—
八年	四,一一一隻	二,六六九,五二七噸	一四,五四四隻	二六二,七八四噸	一八,六一五隻	二,九三二,三一一噸
九年	四,一三四隻	二,九二一,三七九噸	一二,四三七隻	一八一,五五一噸	一六,五六一隻	三,〇一二,九三〇噸
十年	四,八四六隻	三,六〇六,八三八噸	一一,五七七隻	二〇一,九〇一噸	一六,四二三隻	三,八〇八,七三九噸
十一年	五,一四五隻	四,二二九,三一一噸	一〇,六〇九隻	一六八,九三九噸	一五,七五四隻	四,四〇八,二五〇噸
十二年	六,五〇四隻	五,四〇九,九九二噸	一五,三五七隻	二二二,九六六噸	二一,八六一隻	五,六三三,九五八噸
十三年	七,二九六隻	六,一三七,二五六噸	一四,九八四隻	一八〇,八七四噸	二二,二八〇隻	六,三二八,一三〇噸
十四年	七,六一四隻	六,三八〇,二四九噸	一三,〇七六隻	一七五,五六〇噸	二〇,六九〇隻	六,五五五,八〇九噸
十五年	七,八九五隻	六,七九九,二四八噸	一四,六五九隻	一九五,五七九噸	二二,五五四隻	六,九四四,八二七噸

昭和二年十月二十五日印刷
昭和二年十月三十一日發行

朝鮮總督府

京城府觀水洞一三五番地

印刷所 大和商會印刷所

Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers, likely a ledger or index. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.

伯爾派 大味商會印

東京銀座本町一三三番地

博 翰 齋 習 報

明治二十八年三月十一日發行

第百二十號



